



9月は下旬から秋雨前線や台風12号の影響で雨の日が続きました。運動会に向けての活動も日に日に熱を帯びてきています。運動会に向けての活動を通して、私たち保育者は子ども一人一人の何を育てたいのか明確にして一人一人と関わっていききたいと思います。運動会の練習に取り組む子どもたちの姿を保育日誌からお伝えします。

#### <9月16日 きいろ組「リレーの順番」>

年中児のリレーはきいろ組の負けが続いている。並び順は、アンカーだけは何となく決まっていた。アンカーになる子は、アンカーをやりたいわけでもなく、「疲れちゃったな」と気持ちも弱ってきていた。アンカーの子の頑張りを伝えながら、年中児全員とリレーをどうするか話し合ってみることを提案した。みんなを集め、「アンカーをしてくれたり、人数が足りないと2回走ったりしてくれているけど、今日はどうするのかみんなで決めたいと思っている」と保育者が話してみた。すると、いつもアンカーをしてくれている子が「最後もいいんだけど、今日はやっぱり嫌だな」と言った。「最後を走りたい人いる。」と聞くと、3人手が上がった。途中、1人が「やっぱりやめる」と言い、Rだけが「Rちゃんやってみたい。できる」と、意欲満々だったので任せることにした。「人数が足りない時に2回走るのはどうしよう」と聞くと、男の子と女の子2人手があがったので、ジャンケンで決めることにした。その結果、今日は男の子がアンカーに決まった。最初から走る順番を子どもたちに決めてほしかったので、「最初は？ 次は？」と聞くと、次々に手が上がり、スムーズに決まっていた。「よし、今日はこの順で走ってみよう」と張り切っていた。その日も負けてしまったが、自分たちでどうしたらいいか考える良い機会になった。引き続き、子どもたちと話し合い、練習していきたい。

#### <9月18日 あお組「バトンの練習」>

リレーの練習の時、あお組の年長児は毎回3位になってしまう。「どうしたら1位になれるか、最初とアンカーは速い人が走ったらいいのではないかなど、走る順番を子どもたちが相談して決めた。バトンの受け渡しが出来ず落ちてしまったり、もたついて時間がかかってしまったりするので、バトンの練習をするか子どもたちに聞いてみた。Kが「なんでバトンの練習をするの」と聞いてきた。他の子ども不思議そうな顔をしていた。リレーは走る順番だけでなく、バトンを落とした時、拾って次の人に上手に渡せないで時間がかかってしまうこと、バトンの練習は大切なことを知らせた。早速、部屋の中で始めたが、慣れてきたので外でやってみるとスムーズに渡せるようになった。運動会の練習でリレーをした時、バトンを落とすことなく上手に渡せたが、今日も3位であった。ゴール後、1位、2位と発表があり「3位あお組」と言われた時に年長児で喜ぶ子はいなかった。応援席に戻り、「みんな、バトンはとても上手だったよ。また頑張ろうね」と声掛けすると頷いたり、「うん」と返事してくれたりする子がいた。来週も練習を頑張って勝ちたい。

年中児と年長児のリレーに向けての記録です。どちらもなかなか勝てないことで気落ちしたり悔しい思いでいっぱいになっていたりしています。みんなで勝つ方法を考えています。リレーの走る順番であったり、バトンの受け渡しであったり、みんなで知恵を出し合っています。こういったことが子どもの内面を育て「子どもの主体性を育て」ことに繋がっています。子どもたちなりに、自分たちのこととして真剣に考え練習しています。家庭でこうした話題も出ることでしょう。子どもの話に耳を傾け、励ましてください。(園長)